

春うらら、あさげの畑も大忙し

あさげ開け新聞



冬から春への移り変わりの時期に「あさげの里」の畑では野菜や薬草を栽培するための畝作りが始まりました。

昨秋にバスマミドを散布し、覆ってあたヒールシートを外し、ガス抜き、畝立てをしながら鎮圧作業を手分けして行っています。

(右の写真は、鎮圧ローラーに人を乗せて更に圧をかけています)

1. 稲作事業

【育苗、水田作り】

- ・育苗ハウス内の苗床整備
- ・新規借用農地の側溝整備、耕起、管理かんばん取付け

2. 園芸事業

【ほおずき栽培】

- ・ほおずき畑の排水整備
- ・ほおずきのランナー（根）植付け

【野菜栽培】

- ・野菜苗の散水と温度管理
- ・食品衛生責任者取得
- ・新規借用農地の側溝整備、耕起、管理かんばん取付け
- ・夏季野菜の種蒔きと畑の畝立て
- ・ジャガイモ畑の種芋植付け

【トウモロコシ栽培】

- ・肥料撒きと耕起
- ・トウモロコシ種蒔き

3. 薬草事業

【センブリ栽培（2次）】

- ・有孔ポリフィルム撤去

【センブリ栽培（3次）】

- ・センブリ種蒔き

4. 山菜事業

- ・フキノトウの採取と販売

5. 薬細工事業

- ・ネットシヨップ向け小物制作



稲作事業

三月二日、新ハウス内の土もお天道様のおかげで順調に乾き、稲作の苗作りに向けた苗床の整備も完了しました。

【新ハウス内に整備した苗床】



三月八日、今年新たに再生する耕作放棄地のうち、田んぼ二枚と畑二枚の側溝の整備をしました。

冬の間に鈍った体の準備運動になり、四月からの農作業本番に向けて体づくりが出来ました。

【新規借用した農地の側溝掘り】



園芸事業

〈ほおずき栽培〉

三月十八日、昨年栽培したほおずきのランナー（根）を採取し、植付け用に加工しました。

先端の芽から十センチメートルでカットし、五十本毎にゴムで束にしてから、消毒液に三十分漬け、千七

百本のランナーを準備しました。

【植付用のほおずきランナー】



翌日、冷たい雨が降る中、昨年の二倍の長さになる全長二十メートルの畝を八畝つくり、ランナーを定植しました。

【ランナー植付け】



【ほおずき八畝】



〈野菜栽培〉

三月二十二日、今日は朝から雪のため、ハウス内で野菜の種蒔きをしました。

昨年、キュウリの種蒔きが遅れ、五月連休前に社員の方へ苗の提供が出来なかったため、今年は野菜の種蒔きを早めに行いました。

おせんしょ市場提供分を合わせるためと六種類の野菜を左記の数だけ準備し、ハウス内の温度管理がされたトンネルで育苗をしています。
・レタス（六百ポット）

- ・キャベツ（二百二十六ポット）
- ・カボチャ（二十四ポット）
- ・キュウリ（三百六十二ポット）
- ・ミニトマト（百二十九ポット）
- ・トマト（百一ポット）

【野菜の育苗ポット】



〈トウモロコシ栽培〉

三月二十三日残雪の中、薬職人の支援をもらい、「蔵」の前の畑に牛糞百五十袋、肥料三十六袋を撒きました。

牛糞により雪が溶け畑がぬかるんだので、足が取られ腰にも負担が掛かり大変な作業となりました。

【残雪の畑で肥料撒き】



今年は、もう一枚三反歩のトウモロコシ畑があるので、畑が乾いていることを祈ります。

三月三十一日、トウモロコシの種蒔きが始まりました。昨年の倍の二万五千六百粒の種蒔きを行います。

昨年の初出荷は、七月下旬で出荷量が増える時期の為、価格が安かったことも踏まえ、今年は価格が高い七月初旬の初出荷を目指します。

薬草事業

三月二十八日、センブリ栽培三回目の種蒔きを行いました。

播種量は、長野県生薬から購入した、みまき一号十二グラム、みまき二号三十グラム、あさげ産三グラムの、約六十七万五千粒の種を四畝に撒きました。

昨年までは、長野県製薬から種を供給して頂きましたが、今年は薬草の種を配給している長野県生薬から直接種を購入しました。また、昨年あさげの里で成長したセンブリから種を採取し始めて撒きました。

あさげ産の種は、全部の種が生長し収穫できることを期待しています。

【センブリの種まき】



薬細工事業

ネットシヨップや「蔵」で販売させて頂く薬細工や水引細工の小物の商品開発を行っています。左にそのうちの二点を紹介します。

【桜をイメージした水引シヨラム】



【猫ぐら】



【苗販売のお知らせ】

五月連休前に左記の夏野菜苗の提供を計画しており、注文は四月中頃の予定です。是非ご利用下さい。

【夏季野菜苗の種類】

ナス七十本、ピーマン四十本、ミニトマト四十本、トマト五十本、キュウリ百五十本、トウモロコシ二百本

